「豊かな言語生活」とは、「言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活すること」　　R7年度　言語部

資料③

言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活することである。他者とつながり関わり合いながら、自分で考え意思決定し、社会の一員として生きていくためには言葉が不可欠である。

言語部では、豊かな言語生活を「言葉そのものへの興味・関心」「自己内対話」「他者とのコミュニケーション」の三つの側面から捉えており、三つの側面を行き来しながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていくと考える。これらの三つの側面は、互いに関連し合っている。「A という言葉があるんだ。おもしろいな」という「言葉そのものへの興味・関心」の側面が、「このことを書くときにあの A という言葉を使ってみようかな」という「自己内対話」の側面につながり、「〇〇さんにこのことを伝えるためには、あの A という言葉を使うのはどうかな」という「他者とのコミュニケーション」の側面にもつながる。

このように、それぞれの側面を行きつ戻りつしながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていく。言葉に親しんだり「言葉による見方・考え方」を働かせたりする経験を重ね、児童の語彙を充実させていく学習を継続することが、児童の言語生活の充実につながる。そして、言語生活が充実することで豊かな言語生活者が育っていくと考える。

イ：自己内対話

自分の思いを言葉にすることにより意識化し、感性や情緒、思考を活性化したり明確化したりしながら内言を充実させている。

・言葉を用いて論理的に思考し、自分の考えを広げたり整理したりしている。
・自分の中にある漠然とした思いを言語化することで感情を明確にしたり豊かにしたりしている。
・書いたり話したりする際に、自分なりのこだわりをもって言葉や表現を選択し、使おうとしている。



豊かな言語生活





ア：言葉そのものへの興味・関心

言葉を意識し、言葉に関心をもって生活し、言葉に親しんでいる。

・言葉の並びやリズム、韻や言い回しのおもしろさや心地よさを楽しんでいる。
・言葉遊びや短歌・俳句、伝統的な言語文化などを楽しんでいる。
・言葉に出合ったとき、「おもしろいな」「かっこいいな」「すてきだな」などの思いをもって生活している。
・気になる言葉に出合った際、意味や使い方を調べたり、いつか使ってみようと書き留めたりしている。
・その言葉の仲間が他にもないかと調べたり集めたりしている。

ウ:他者とのコミュニケーション

言葉の働きを意識して、思いや考えを他者とよりよく伝え合おうとしている。

・発表や話合い、交渉などで、考えを伝え合い、理解を深めたり問題を解決したりしている。
・他者と関わり合う際に、言葉から相手の思いを理解し、円滑なコミュニケーションを取っている。
・言葉には人間関係を構築する働きがあることを意識し、言葉を介して他者と良好な人間関係を築いていこうとしている。